

加西市の将来を語る「かさい未来カフェ」

問合せ先／人口増政策課 ☎42-8700
fax43-1800 jinko@city.kasai.lg.jp

加西市は8月31日、新しい総合計画等の策定に向けた市民参画のイベントとして、地域交流センター（交流プラザ）で「かさい未来カフェ」を開催しました。「かさい未来カフェ」では参加者が少人数のグループに分かれ、リラックスした雰囲気の中、加西市の将来について自由に話し合い、席替えを行いながらアイデアを共有し、最後に一人ひとりの提案をまとめました。

当日は10代から70代まで、計73名の幅広い年齢層の方々にご参加いただき、子育て支援の充実や空き家の利用、世代間・地域内交流の促進などさまざまな意見が出され、大いに盛り上がりました。



市民アンケートの回答についてご協力ください

現在加西市では、新しい総合計画等の策定にあたって、市民の幅広い意見をお伺いし、計画に反映するため、アンケート調査を実施しております。

この調査は、加西市にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した4,000人の方を対象に、9月末頃郵送しています。対象となられた皆さまには大変お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。



北条高校4クラス化に向けて

問合せ先／人口増政策課 ☎42-8700
fax43-1800 jinko@city.kasai.lg.jp



イオンモール加西北条店での署名活動（8/31）

北条高校の活性化を目的とした北条高校活性化協議会は、令和元年度の北条高校の募集定員が1学年3学級になったことを受け、8月8日に県教育委員会へ募集定員を1学年4学級160名に戻すよう求める陳情書を提出しました。また、当協議会の声だけでなく地域の方の思いも伝えるために、イオンモール加西北条店や市内中学校の体育祭など、さまざまな場所で署名活動を実施し、多くの方にご協力いただきました。集まった署名は県教育委員会へ提出し、あらためて募集定員を4学級160名に戻すよう訴えてまいります。

青野原俘虜収容所将校用風呂棟が県登録文化財へ

問合せ先／生涯学習課 ☎42-8775
fax43-1803 shogai@city.kasai.lg.jp

9月5日、兵庫県教育委員会にて、「青野原俘虜収容所将校用風呂棟」が兵庫県登録文化財として議決されました。

青野原俘虜収容所は、第1次世界大戦時にドイツ、オーストリアーハンガリーからの捕虜を収容するため、大正4年に建設されています。この風呂棟は将校用兵舎に付属して建設されたもので、元位置で残存する全国的にも貴重な俘虜収容所建物です。加西市では指定・登録を含め、初めての戦争遺産文化財です。



将校用風呂棟外観



将校用風呂棟内部

- 所在地／青野原町
- 管理／青野原俘虜収容所保存会



【写真左上】新作狂言「根日女」の見せ場

志染の里で行われた宴席で身分を明かす2人の皇子

【写真下左右】志染能楽仕舞こども教室による華麗な舞い

【写真右】かがり火に照らされる御坂神社の能舞台

●『播磨国風土記』でつながる三木市との連携事業

8月25日、三木市志染町にある御坂神社で開催された「志染能楽仕舞こども教室 夏の舞台発表会」に加西市こども狂言塾が出演しました。本年度より、加西市は、日本最古の地誌『播磨国風土記』に記述がある根日女伝承にも登場する三木市と連携事業を展開しています。5月、6月には共催でハイキングを2回実施し、それぞれ200名を超える参加者がありました。令和という新しい時代を迎え、1300年前に編さんされた『播磨国風土記』を通じて、古代と現代という時代の縦軸と、加西市と三木市という横軸が重なった、両市にとって歴史的に大きな意味を持つ機会となりました。

●時代を超え、再び意奚（オケ）袁奚（ヨケ）が志染へ御坂神社 能舞台での公演

小雨交じりの夕方、三木市の仲田市長と西村市長のあいさつに続き、かがり火を点灯し、舞台発表会が始まりました。

まず志染能楽仕舞こども教室の指導者である観世流能楽師シテ方の上田顕崇さんから能楽についての解説があり、本日が五穀豊穡を願う特別な舞台であることの説明がありました。

第1部は、志染能楽仕舞こども教室が、仕舞「猩々（しょうじょう）」「西王母（せいおうぼ）」「竹生島」などを上演しました。大きな声で堂々とした立ち振る舞いで素晴らしい演技でした。

第2部は、加西市こども狂言塾が仕舞「柳の下」、狂言「二人大名」、仕舞「花の袖」、最後に新作狂言「根日女」の短縮版を披露しました。6月から第6期生が加わり、8月上旬にオークタウン加西で合宿を行い、舞台発表直前には「万作の会」高野先生にご指導していただきお稽古を積んできました。能舞台という厳格な雰囲気の中、少々緊張気味でしたが、徐々に舞台に慣れてきて、最後は大きな声と笑顔で元気いっぱい演じました。

今後も、『播磨国風土記』がつかないでくれた三木市とのご縁を大切に、地域に残る伝承文化を継承していきます。

『播磨国風土記』ゆかりの地 三木市志染



志染の岩室（三木市提供）

今回の公演会場となった能舞台がある御坂神社は、『播磨国風土記』にも記載される由緒正しい神社で、その社伝には第17代天皇、履中天皇が参拝されたと伝えられています。

同風土記では、履中天皇が井戸のそばで食事をしている時にシジミ貝が上がって来たので、ここを志染の里と名づけたと伝えられています。また、皇位継承争いで雄略天皇派に殺された市辺押磐皇子（いちのへのおしはのみこ）の2人の皇子、意奚と袁奚が難を逃れ、志染の石室に隠れ住んだとされています。